

-6 維持管理

施設の管理に際しては、事前の調整を踏まえて適切な維持管理計画を策定する。

また、施設や魚道の定期的なメンテナンスを行うとともに、老朽化や洪水等により破損（機能低下）した場合には、適切に修復する。

1. 施設の運用

魚の遡上時期の年変動や河川流量の変動等に留意しながら、施設及び魚道を運用する。

頭首工等の農業用取水施設では、魚の遡上・移動時期を考慮して非灌漑期にも適切な魚道流量を確保する。

また、渇水時にもできるだけ魚が利用できるような運用に配慮する。

2. メンテナンス

現在の技術では、完全にメンテナンスフリーとできる魚道の設計は困難であり、定期的な堆積土砂、流木及びゴミ等の撤去等が必要である。

また、メンテナンスを施設管理者のみが行うのではなく、魚道にたまったゴミの撤去等、住民等の協力を得て行う場合もある。

< 土砂等が堆積し機能低下を起こしている魚道の事例 >



3. 魚道の修復

老朽化して機能低下や破損した魚道等は修復する。

また、洪水や河床低下等によっても魚道は破損（機能低下）することがあるため、定期的に点検し、必要に応じて修復する。

< 魚道の継ぎ目に亀裂が生じ漏水を起こしている魚道 >



< 魚道下流部で河床低下が生じている魚道 >

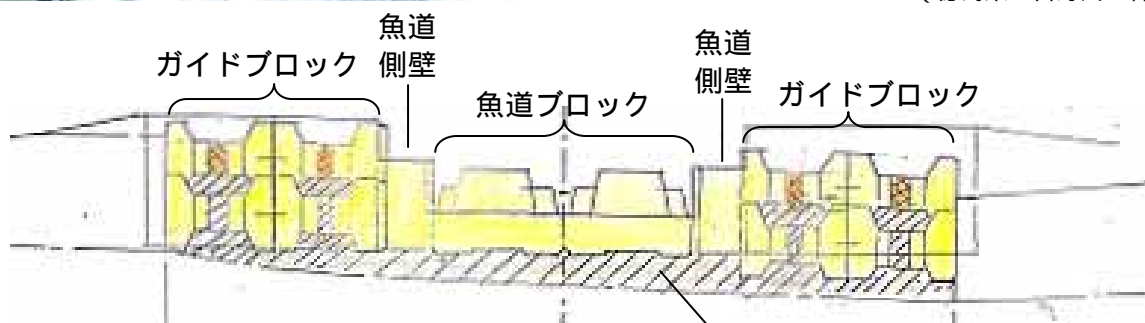


< 魚道下部洗掘に対する応急対策事例 >



洪水により魚道下部の土砂が吸い出されて魚道が大きく沈下したため、応急的対策として魚道下部にできた空隙約 100m³ に栗石を充填した。

(徳島県・吉野川・柿原堰)



< 横断面図 >

長さ約 15mの区間にわたり、ブロック底面と河床面に最大 50cm 程度の間隙が生じていたため、この部分に栗石を充填する等の応急的対策を施した。